

[成果情報名] 平坦地における小型ハクサイ「お黄にいり」を用いた連続栽培体系

[要約] 小型ハクサイの有望品種「お黄にいり」は結球重が 800g で、最短で定植後 40 日で収穫が可能である。本県平坦地においては、不織布のべたがけ、ビニールトンネル、ハウス、直播栽培を組み合わせることで、5 月上旬から 6 月下旬までと、10 月上旬から 12 月下旬まで連続的に収穫できる。

[担当] 総農セ・栽培部・野菜科・對木啓介

[分類] 技術・普及

[課題の要請元]

(旧)北巨摩農業改良普及センター

[背景・ねらい]

従来の野菜より小型である“ミニ野菜”は、少量多品目消費の傾向や、食味の良さなどといった特徴から注目されている。

直売所で人気のハクサイにおいても、小型品種が複数販売されているが、各品種の特性や本県に適した作型は明らかになっていないため、これらを明らかにし直売所の品揃え充実の一助とする。

[成果の内容・特徴]

- 1．結球重が 800g、球高が 22cm、球径が 11cm 程度の大きさで、球内色が黄色の砲弾型のハクサイである（図 1、表 1）。
- 2．外葉は対照品種に比べ小さく、株張りはコンパクトである（表 1）。
- 3．最短で定植後 40 日で収穫が可能である（表 1、図 2）。
- 4．黒斑細菌病の発生が他の品種に比べ少ない（表 2）。
- 5．不織布のべたがけ、ビニールトンネル、ハウス、直播栽培を組み合わせることで、5 月上旬から 6 月下旬までと、10 月上旬から 12 月下旬まで連続的に収穫できる（図 2）。
- 6．栽植密度は 7272 株/10a（うね幅 110cm、株間 25cm、2 条千鳥植え）とする。

[成果の活用上の留意点]

- 1．収穫の遅れは品質低下を招くので適期収穫を行う。

[期待される効果]

- 1．“使い切りサイズ”の小型ハクサイとして、直売所販売や小売店との契約栽培などで生産振興が期待でき、直売所では販売品目充実による活性化の一助となる。

[具体的データ]



図1 小型ハクサイ「お黄にいり」

表2 黒斑細菌病の発生状況 (2005年秋)

品種名	発病株率 (%)	発病度 ^{z)}
お黄にいり	38.3	9.6
無双(対照)	95.0	17.5

z) 外葉における病斑の発生程度を以下の基準に分け、発病度を算出した。
 A: 病斑がすべてに発生 B: 2/3以上 C: 1/3~2/3
 D: 1/3未満 F: 無し
 発病度 = ((4A+3B+2C+D)/4 × 調査株数) × 100

表1 品種特性 (2006年)

品種名	結球重 (g)	球高 (cm)	球径 (cm)	葉身長 ^{z)} (cm)	葉身幅 ^{z)} (cm)	収穫日	定植後収穫迄日数
お黄にいり	756	21.8	10.9	38.3	25.9	10/19	38
無双(対照)	1637	26.3	14.4	44.3	30.1	11/9	59

z) 各株最大の外葉を計測

(耕種概要) 播種: 8/25 定植日: 9/11

施肥量: N - P₂O₅ - K₂O = 20 - 20 - 20 kg/10a 苦土石灰: 200kg/10a

栽植様式: うね幅110cm 株間25cm 2条千鳥植え(7272株/10a)

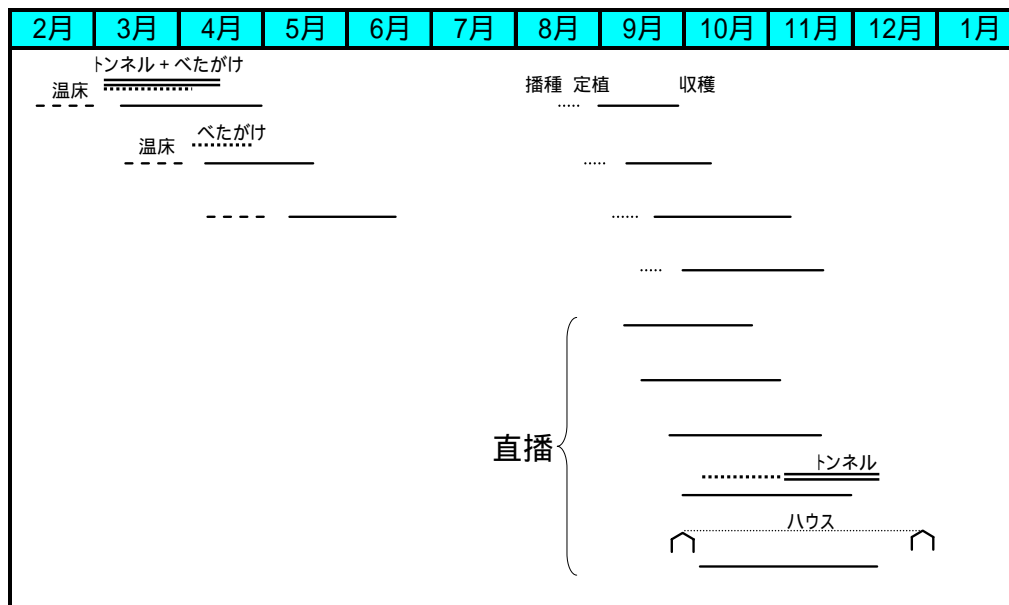


図2 小型ハクサイ「お黄にいり」の連続栽培モデル

—— トンネル(穴あき農PO(開孔率1.5%)) ベタがけ(長繊維不織布)

[その他]

研究課題名: 直売向け野菜における品種特性の把握と生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2005~2007年度